

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年9月4日】第175号



2学期がはじまりました

9月1日(金)、農大稲花小の2学期がはじまりました。どの子どもたちも元気に登校し、校内テレビによる始業式、そして身体計測のあと、通常授業がはじまりました。夏休みの様子を紹介したり、新学期の目標や係などについて話し合ったり、各学級でも順調なスタートとなったようです。本校ではいわゆる夏休みの宿題はありません。子どもたちは得意を伸ばし、不得意を補うように家庭学習に励むほか、興味・関心のあるところを探求したり、家族の皆様ほかと楽しく過ごしリフレッシュしたりするなど、それぞれに充実した休みを過ごした様子です。夏休み中も毎日の学習習慣を保つためには、保護者の皆様のお力があつたと、感謝しています。学年によっては、さっそく初日から1学期の復習と力試しも行われました。

始業式では子どもたちに、授業や先生、保護者や社会でお世話になる方々、友だち、そして自分自身を1学期に引き続き大切にしてほしいという話をしました。相手を大切にすることは、自分を大切にすることでもあります。2学期はその大切にしている気持ちを、「ありがとう」「いい考えだね」「なるほど」など前向きな声掛けや笑顔などの態度でも示していくようにとも、話をしました。お互いを大切にしている気持ちを、自然に表現できるようになることを願っています。

なお、夏休みに暑中見舞いや残暑見舞い、あるいは、旅先からのお便りをくれた子どもたちと保護者の皆様、どうもありがとうございました。まずはこの場を借りて御礼申し上げます。

避難訓練

9月1日【金】の午後、本校では地震発生を想定した避難訓練を行いました。その目的は、地震の発生を想定し、教室からグラウンドへの迅速かつ安全な避難の方法を子どもたちに理解させること、そして、教職員の役割分担を再確認し、緊急対応に備えることです。校内放送で地震の発生が伝えられると、子どもたちはまず机の下に避難、その後、火災発生を想定でグラウンドに整然と避難しました。全校児童の避難完了まで約5分、ふざける子どもやおしゃべりする子どももおらず、頼もしい限りでした。煙から身を守るためハンカチで口を覆うことを目指していましたが、ハンカチがポケットに無い子どもも少なからずいましたので、これは次の目標となります。

今年の9月1日防災の日は、関東大震災から100年という特別な日でした。ご家庭でもお子様から避難訓練の様子を聞いていただくとともに、通学途上で地震ほかの災害に遭遇した時の対応について、話し合ってくださいようお願いします。子どもの発達段階や通学の経路、時間帯などによって異なる対応が必要となります。時には通学に同行し、安全についてお子様と一緒に考え確認するのはいかがでしょうか。

夏休みのアフタースクール

8月11日(金)から17日(木)を除く7月24日(月)から8月31日(木)まで、農大稲花小のア

フタースクールは開室し、紙飛行機、元素カルタ、アート手形などのプログラムのほか、いろいろな大会、おばけ屋敷、プールや水遊びなどで、たくさん子どもたちが楽しく過ごしていました。

8月30日【水】と31日【木】には子どもたちが運営する縁日が開かれ、保護者の皆様にも来校していただきました。教職員も、浴衣や甚平を着た子どもたちに迎えられて、舞台の様子を見たり、いろいろなお店を訪ねたりと楽しいひと時を過ごしました。縁日などでの子どもたちの主体的な活動を見ると、アフタースクールが学校や家庭とは違う第3の居場所として、子どもたちの成長を助けていることを実感します。低学年から卒業まで、子どもたちは学校だけでなくアフタースクールでの楽しい思い出をも積み重ねていくのでしょうか。

イネの開花

9月1日(金)は、二百十日でもありました。これは、立春から数えて二百十日目に当たる日で、昔から台風が多いとされていました。イネの開花期でもあるため、農家の人々には天候がとくに気になる時期でもあったのです。農大稲花小のテラスで育てているイネも、8月下旬から開花がはじまりました。ご家庭でバケツ稲を栽培している子どもたちも、イネの開花を観察しているのではないのでしょうか。

農大稲花小の校名は、小さくて目立たないがたくさんの花を咲かせ、たくさんの実りによって多くの人を養うイネに因んでいます。9月中旬には、田奈の田んぼでの稲刈りが1年生と2年生によって行われる予定です。



東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子